

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	391100054		
法人名	コンフォートライフ合同会社		
事業所名	グループホーム やかた		
所在地	岩手県釜石市大町3-9-16		
自己評価作成日	平成27年12月23日	評価結果市町村受理日	平成28年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=0391100062-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=0391100062-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年1月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人らしい生活が維持できるように、個々の希望や状況に合わせたケアを心がけています。利用者や家族、職員や地域の方々、共に励ましあいながら支援できるような関係作りを努めています。利用者が、大好きな釜石でとにかく楽しく過ごせるように「ほっと一息ぬくもりのあるやかた～一日十笑～」を介護理念に、いつも笑いの絶えない毎日に行けるよう支援させて頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・理念は職員で話し合っており、見直しもしている。理念「ほっと一息、ぬくもりのあるやかた～一日十笑～」をしっかり理解し、サービスを提供している。
- ・利用者は、共有ホールで職員と会話したり、利用者同士笑顔を交わしたり、温かな雰囲気が感じられる。
- ・管理者が、町内会の役員に依頼され、地域の信頼と協力が得られている。
- ・運営推進会議では、委員から活発に意見が出され、充実した会議が運営されている。会議録も丁寧に記録されている。委員の意見でもあり、利用者の送迎に、地域のタクシー会社の協力が得られている。
- ・職員同士の関係性が良好である。求職者が見学に来て、職場の雰囲気が良いので、就職し働いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申送りで介護理念と目標を復唱し意識の向上をしている	理念「ほっと一息ぬくもりのあるやかた」を玄関に掲示している。理念と、介護目標「一日十笑」を、朝の申し送り時復唱している。今月の目標は「大きな声で挨拶しよう」で、理念と併せて、念頭に置きケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭や地域イベントへの参加のほか、保育園園児や小学校児童の方々が、定期的に歌や遊戯の披露に来所して下さったり、防災訓練にも近隣の方々に参加頂いている、	管理者が、町内会の役員に依頼され、活動している。保育園児や小学校児童との交流が定着している。向かいのキリスト教会のコンサートに出かけたりしている。美容院には、美容院と地域のタクシー会社の協力で、送迎に職員同道せず実施出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練時車椅子の操作について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を実施しているが、主任クラスの介護職員も参加し現状を報告している。	推進会議の委員から、地域のタクシーの協力について意見が出され、実現できている。利用者や家族の代表も参加し、意見を述べている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村の担当部署に足を運ぶ機会も多く、密な情報交換を心がけている。	市職員とは、運営推進会議への参加のほか、文書を届ける際に直接出向き、その際に事業所の様子を伝えたり、声をかけられて話しをするなど、良好な関係である。また、在介センター会議に出席し、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる職員全体ミーティングを利用し、身体拘束について研修を行い、職員同士で注意し合える環境作りを行っている。	職員全体ミーティングで、スピーチロック、移乗・排泄介助等、身体拘束も含む研修を行っている。本人から、布団が落ちるのが嫌な事、立ち上がりに手すりとしてつかまれるので、柵をして欲しいと希望され、本人・家族の了解の上で、柵を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様の取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については活用している利用者もあり、特に担当職員へは制度と必要性について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解いただけるよう専門用語などは噛み砕いて分かりやすく説明するよう心がけている。時間のある家族には自宅で一読頂くなども行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族代表に参加頂いているほか、家族の面会時にはゆっくり話をしよう心がけている。家族同士だけでなく他利用者との会話も楽しんでいただけるようにしている。	利用者と家族代表が、運営推進会議に参加し、自由に発言できるよう配慮している。家族には、入居時に、都合の良い連絡時間を確認している。通院時や面会時に話を聞いている。また、「広報やかた」に連絡コーナーを設け、担当者が利用者の生活状況を記入し、家族に毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員ミーティングのほか、12月から管理者と主任クラスの職員で連絡調整会議を開催し幅広い意見交換を行っている。	職員ミーティングでは、業務の検討や連絡事項について話し合われており、改善が必要なことは、直ちに取り組んでいる。ミーティングにはほとんどの職員が参加し、時間外手当を支給している。また、連絡調整会議(管理者、主任・リーダー)の継続を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力評価を行い向上心につながるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へは積極的に参加しており、職員主催の身体拘束(スピーチロック)や実技(移乗や排泄介助)研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生や研修生の受入、求職者の施設見学にも多く対応しており、その後の感想も頂ける様対応している。		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談での情報収集には限りがあるため、入所初期には声がけやふれあいを多く持ち、不安の解消を第一に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期には本人同様に家族や関係者との関わりを多く持ち情報収集と不安の解消、関係作りに努め共に支援していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず施設見学を進めており、見て頂いた上でサービスの説明と要望を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯など全ての家事に参加して頂き家族のような関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に取り共に支援していけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との面会は自由にできるよう環境作りを行なっている。	家族の面会のほか、友人が土産を持参しながら来ることもある。家族から、携帯電話を渡されている利用者があり、電話をかける際に操作を手伝う等の支援も行っている。利用者によっては、お気に入りの美容院に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士はとても良い関係を築けているが、職員が中心となり会話の援助や関係の架け橋を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約終了した方への介護保険認定更新時期の連絡や状態確認などを行なっている。		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に会話の耐えない環境作りを心がけ、会話から情報を収集している。	理念の一日十笑を心がけ、会話を大事にしている。入浴介助や排泄介助時に要望が聞けることが多い。夜間、他の利用者が寝た頃自室から出て来て、「今日嫌な事あったけど忘れてしまった、何でも言ってくださいと言われ安心した。」と戻られたり、職員との信頼関係が築かれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者からも情報提供頂くが、コミュニケーションを図りながら本人からの聞き取りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	手を掛けすぎない介助を心がけ見守りながら、個々に合った生活が送れるよう環境作りにも配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員中心にケア会議を行い、それぞれの意向が反映できるよう計画している。	居室担当制にしている。介護計画は、ケア会議において、見直し、作成している。本人や家族から得た情報や申し送りノートの気づき、医療面の情報、サービス担当者会議で検討(転倒等)事項等を、介護計画に反映している。計画は、本人や家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買物への支援や女性利用者の女子会へも配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院、床屋への支援や出張美容院の支援も行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来へ出向く事が困難な利用者へは在宅療養科への往診紹介などを行なっている。	かかりつけ医の受診は、家族が行っている。また、病院に行くことが難しくなった利用者については、家族に訪問診療の医師を紹介している。退院時、医師からホームでの生活リハビリの指示書を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護職も分け隔てなく利用者とも接し常に情報共有も出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員や担当看護師とのサマリー交換、退院時のカンファレンスや医師からの病状説明などにも同席させて頂き、情報収集と関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の指針説明と意思確認を行い取り組んでいる。とくに、在宅療養科の医師とは密に連携し環境を整えている。	やかたの「ターミナル(終末期)ケア及び看取りに関する指針」を入居時に説明している。夜間や緊急時の対応について、それぞれのかかりつけ医の指示を得ている。看取りについては、これまで、階下の小規模多機能の利用者の看取りと一緒に経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修などに参加し慌てず対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い前年度は実際に夜間に訓練を行なった。地震時については訓練ではなく、実際の避難が年に数回ある。	年2回、消防署立会の訓練を行っている。夜間(19時)と、昼の訓練(夜間想定で実施)時より緊迫感があったと講評を得た。地震避難訓練は、年数回地震があるので、実際に避難することが経験になっている。備蓄は、食材、燃料としてカセットコンロ、暖房は反射式ストーブを用意している。	

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴中やトイレ使用中には、分かりやすく札を下げプライバシーを保護している。言葉遣いや態度など接遇について話し合っている。	一人ひとりへの声掛けは、同じ名前の方が多いので、名前で呼んでいる。入浴時、トイレ使用時は、使用中の札を下げ、プライバシーを保護している。ミーティングで、言葉遣いや態度などの、不適切な対応について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から気持ちを汲み取り、本人の思いを伝えられる様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムに合わせてながら満足度のいくような環境を作れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ物や好みの洋服を身に着られるよう自分で選びお洒落を楽しんで頂くための支援している。美容、理容店は馴染みの店へ行くよう送迎もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、おやつ作りを利用者にもして頂いている。食べられない物に対しての代替も対応している。職員と一緒に会話しながら食事を摂っている。片付けは、役割分担を決め行っており職員が手伝おうとすると利用者から注意をうけることもある。	職員が、事前に献立を考えるが、週1回は冷蔵庫の食材を使って調理する「フリーの日」を設けている。肉が嫌いな方には魚を提供するなど、好みに合わせて提供している。食後の片付けは、職員がやろうとすると怒られることがあるなど、自分達の役割との認識が強く、利用者が積極的に行っている。だんご等のおやつ作りを手伝っていただくこともある。パンの耳を使ったフレンチトーストが、利用者に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの物をいつでも飲めるようセッティングしてある。嚥下障害がある方など必要であれば、ミキサー食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、個々に合わせ職員が声掛けと介助を行っている。歯科往診の際には、ブラッシング方法のアドバイスも頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調不良により機能低下した利用者が増えていますが、出来る限り残存機能を活かしてトイレでの排泄を声掛け、支援している。	排泄については、機能低下してきているが、トイレでの排泄を支援している。夜だけおむつの方、リハビリパンツに尿取りパットの方も、自立に向けた支援をしている。おむつの方は、起床時清潔の保持、褥創予防に陰洗している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には、野菜、乳製品をバランス良く取り入れている。無理強いせず出来る方には声掛けをし一緒に体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日時間は、決まっていますが順番等はそれぞれの同じ曜日内でお互い声をかけて入浴が出来るようしている。	浴室は、月曜日から土曜日まで入浴できるよう準備しており、利用者は、週3回入浴している。気の合う利用者が一緒に入浴することもある。歌を歌い楽しむ方もいる。衣服の着脱は、自身でできることはしていただき、それをチェックするようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、体調に応じて仮眠をとって頂いている。就寝時の環境は、良眠出来るよう照明、音等の配慮をしている。布団以外でも家具や仏壇などなじみのものを持ち込んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方薬説明書を個人ファイルに綴り確認できるようにしている。体調などに変化があった時などは家族との受診にも同席し医師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近隣の散歩、買い物等希望時には出かけ外の空気を吸いながら気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大型デパートへ買い物に出かける計画を立て外出の支援をしている。町内会の行事参加、祭り見学に率先して出かけられるようしている。	町内会の行事や祭り見学に出かけている。近くの大型店の買い物を、年4回計画しているが、年々参加者が少なくなっている。大観音見学にも参加者が減ってきている。最近では、散歩に消極的になってきたが、買い物に行こうと声かけをし外出するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事務所でまとめているが、買い物をする時には、本人の希望金額を入れた財布で好きなように買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望が聞かれた時には、電話を掛けたり手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参した物、購入した物それぞれ自由に飾り付けを行っている。鉢植え等は、廊下窓側の棚に置き手入れをしたりしておられます。	共有のホールには、利用者が、穏やかな表情で寛いでいる。廊下の壁には、玉ねぎの絞り染め等の手作りの作品が飾ってある。また、交流している保育園児が、自分の似顔絵を描いたポスターが貼ってある。窓側の棚は立って作業できる高さで、草花の鉢植えが置かれ、利用者が手入れをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者様が安心して生活が出来るよう、馴染みのものを置いたり好みの物を飾ったり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電化製品、タンス、椅子、電子ピアノ、仏壇と各自持参して来られ生活スペースを作っておられます。	各居室は、電動ベッド、換気扇、クローゼットが備え付けられており、寝具は持ち込みである。その他は、仏壇や小箆、テレビの他、電子ピアノを持ち込まれている方もおり、思い思いに過ごせる居室となっている。掃除は、利用者と一緒にっており、清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者様の「出来る事。」「わかること。」「等把握し自立した生活が出来る様見守りをしながら支援しています。		